

男女共同参画に関する
高校生の意識調査報告書

平成27年3月

長野県県民文化部
人権・男女共同参画課

目 次

1 調査の概要	1
2 調査結果		
◆ 調査結果のポイント	2
◆ 調査項目別結果		
(1) 用語や制度の認知度について	4
(2) 世の中の男女平等について	5
(3) 性別役割分担意識について	7
(4) 自己肯定感について	8
(5) 家庭での役割分担について	12
(6) 進路選択等について	15
(7) 理想の働き方について	16
(8) 育児と就業継続の意思について	17
(9) 男女共同参画社会について	18
3 調査票	19

男女共同参画に関する高校生の意識調査の概要

1 目的

平成28年度を初年度とする「第4次長野県男女共同参画計画」を策定する基礎資料を得るとともに、高校生が男女共同参画の意識を持ち、将来に向けた進路選択が可能となるような施策の資料とするため、長野県男女共同参画社会づくり条例第22条の規定に基づき、男女共同参画に関する高校生の意識調査を実施する。

2 調査の設計

- (1) 調査地域 長野県全域
- (2) 調査対象 公立高校3年生の男女2,000人程度
- (3) 抽出方法 学校の規模、学科等を勘案し、4通学区について各通学区概ね500名となるように学校を選択
- (4) 調査方法 調査協力高校へ郵送により用紙を配布、回収
- (5) 調査時期 平成26年10月～11月

3 調査項目

- (1) 用語や制度の認知度について
- (2) 世の中の男女平等について
- (3) 性別役割分担意識について
- (4) 自己肯定感について
- (5) 家庭での役割分担について
- (6) 進路選択等について
- (7) 理想の働き方について
- (8) 育児と就業継続の意思について
- (9) 男女共同参画社会について

4 回答者数

(人)

総数	1,934
女子	961
男子	960
性別無記入・その他	13

※回答者数全体には、性別無記入及びその他回答者数を含む。

男女共同参画に関する高校生の意識調査 調査結果のポイント

1 用語や制度の認知度について

- ◆「男女共同参画社会」について、「知っているか、または聞いたことがある」割合は88.8%(女子90.5%、男子87.7%)となっている。
- ◆「ワーク・ライフ・バランス」については、調査項目の中で最も低い26.7%(女子27.3%、男子26.2%)となっている。
- ◆平成22年度に実施した前回の高校生意識調査と比較すると、「ジェンダー」(63.7%)、「ワーク・ライフ・バランス」の割合が、それぞれ2倍程度高くなっている。

2 世の中の男女平等について

- ◆「男女平等である」とする割合で最も高いのは「学校生活」67.4%で、「社会全体として」は、21.4%となっている。
- ◆男女別の「平等である」とする割合では、「学校生活」を除く3つの調査項目で女子が男子より約11~14ポイント少なくなっている。
- ◆男女差が最も大きいのは、「社会全体として」において「(どちらかといえば)男性の方が優遇されている」割合で、女子46.5%、男子30.8%で15.7ポイントの差となっている。

3 性別役割分担意識について

- ◆「男は仕事、女は家庭」という性別によって役割を固定する考え方について、「(どちらかといえば)反対」という割合は60.9%で、前回調査と比較すると4.3%増加している。
- ◆男女別では、女子70.6%、男子52.0%で、女子が男子より18.6ポイント差で高くなっている。

4 自己肯定感について

- ◆調査項目について「(まあまあ)そう思う」割合で最も高いのは「世の中に役に立つことがしたい」で87.0%、最も低いのは「自分のことが好きだ」で39.0%、他の項目は、約6~8割で肯定的な回答が多くなっている。
- ◆男女別では、「自分のことが好きだ」(女子36.7%、男子41.6%)以外の項目では、女子が男子より肯定的な回答が多くなっている。最も男女差が大きいのは、「自分ほまわりの人から大切にされている」と「悩みや心配事を相談できる人がいる」で、それぞれ12.2ポイント差となっている。
- ◆「尊敬できる大人は誰か」について、男女差が大きいのは「母親」とする割合で17.4ポイント差で女子が高く、「歴史上の人物や有名人」とする割合が9.9ポイント差で男子が高くなっている。

5 家庭での役割分担について

- ◆すべての調査項目で家庭で主に行っているのは「母親」が最も高く、どの項目も「自分」と「父親」の行っている割合に大きな差はない。
- ◆「自分」と回答したうち、「食事の用意・後片付け」と「洗濯」については、女子が男子より約7ポイント高く、他の項目より男女に差がみられる。

6 進路選択等について

- ◆「男だから」、「女だから」という考え方が影響するのは、全体、女子、男子とも最も高いのが「服装や言葉づかい、行動」で64%以上となっている。
- ◆男女別では、「趣味や遊び」が男子は41.9%と女子より11.0ポイント高く、「今後の進路・就職先」が女子は29.9%と男子より7.4ポイント高くなっている。
- ◆前回調査項目との比較では、すべての項目で、「男だから」、「女だから」という考え方が影響する割合が少なくなっている。

7 理想の働き方について

- ◆全体、女子、男子とも最も高いのが「仕事と家庭を両立し、どちらも充実した生活のできる働き方をしたい」で、約40～50%となっている。次いで「出世しなくてよいから、自分にあった仕事を長く続け、力を発揮したい」が約28%となっている。
- ◆男女別では「仕事と家庭を両立し、どちらも充実した生活のできる働き方をしたい」が女子は男子より10.9ポイント高い一方、「経営者や管理職となるように努力し、仕事で自分の力を発揮したい」が女子は6.8%と男子より8.2ポイント低くなっている。

8 育児と就業継続の意思について

- ◆女子は「妻が育児休業を取得して子どもを育てる」が40.7%、「夫婦ともに育児休業を取得して子どもを育てる」が40.5%とほぼ同じだが、男子は「夫婦ともに育児休業を取得して子どもを育てる」が48.5%と最も高く、「妻が育児休業を取得して子どもを育てる」は30.4%となっており、男女に差がみられる。

9 男女共同参画社会について

- ◆実現したい社会として、女子は「男女ともに仕事と生活の調和がとれている社会」が58.5%と最も高く、次いで「男女が責任を分かち合い、性別に関わりなく個性と能力を發揮することができる社会」が56.4%となっているのに対し、男子は「法律や制度の上で男女の差がない社会」が55.8%と最も多く、次いで「男女ともに仕事と生活の調和がとれている社会」が55.1%となっており、男女の差がみられる。
- ◆最も男女差が大きい回答項目は、「法律や制度の上で男女の差がない社会」で男子が女子より15.0ポイント高くなっている。